

スミダコーポレーション (TYO: 6817)

コスト構造改革の成果顕著に。新年度も実質的に着実な増収増益を目指す。ニッチトップ戦略を推進する中期経営計画2026-2028に期待高まる。

◇ 2025年12月期通期決算ハイライト：会社予想を上回る着地、堅調な案件獲得

スミダコーポレーション（以下、同社）が2026年2月6日に発表した2025年12月期通期決算は、会社予想を上回り増収増益になった。通期の売上収益は1471.9億円（前年度比2.2%増）、営業利益74.4億円（同64.8%増）、税引前利益48.3億円（同272.9%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益36.2億円（同512.4%増）、基本的1株当たり当期利益109.47円、年間配当53円である。

この決算のポイントは以下の3点だ。

第一に、不確実性の高い事業環境においても内部成長・外部成長を通じて通期増収となり、さらにコスト構造改革の効果が顕在化した点である。

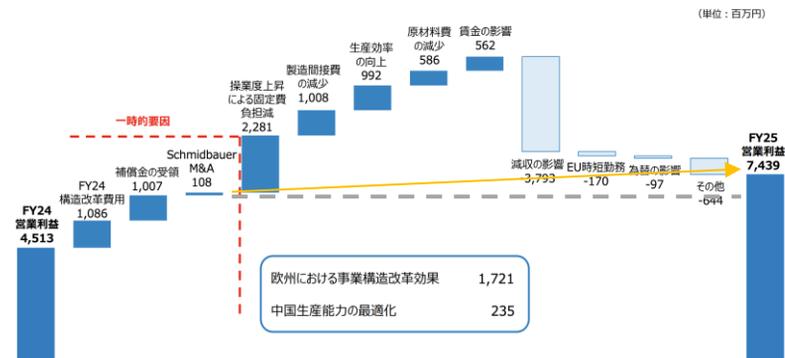
売上収益面では、車載関連、xEV向け急速充電インフラ関連、太陽光発電関連等において一部で需要が弱含みとなったものの、同社の幅広い顧客・地産地消型のグローバル供給網が売上収益が下支えた。さらに、同社と製品・供給体制で相互補完性の高いSchmidbauer社をタイムリーに買収し、通期で増収を実現している。

	2024年度	2025年度	増加率 (%)
車載関連	87,893	85,415	△2.8
インダストリー関連	36,314	39,312	8.3
家電関連	19,770	22,466	13.6

出所：同社資料

営業利益は一時要因を除き通期で7.2億円の増益となり、コスト構造改革の成果が出た。欧州の事業構造改革、中国での生産能力の最適化、および中国における製造間接費の削減の効果が減収要因を上回り、採算が改善している。収益体質の筋肉質化が進んだと言えるだろう。なお、為替の損益影響は限定的だった。

営業利益増減要因分析 (FY2024 ⇄ FY2025)



出所：同社資料に弊社注記

4Q決算アップデート

電気機器

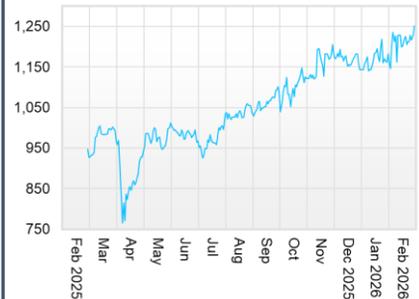
2026年3月6日

株価(3/5)

1,175円

52週高値/安値	1253/757円
1日出来高(3ヶ月)	319.1千株
時価総額	389.0億円
企業価値	988.2億円
PER(26/12予)	10.6倍
PBR(25/12実)	0.63倍
予想配当利回り(26/12)	4.5%
ROE(25/12)	6.0%
営業利益率(25/12)	5.1%
ベータ(5年間)	0.83
発行済株式数	33.109百万株
上場市場	東証プライム

株価パフォーマンス



%	1M%	3M%	12M%
Share price	6.5	8.1	24.4
TSE TOPIX	10.8	17.3	45.0

注目点

コイル製品のグローバルリーダー。多様なカスタム製品を世界の主導的顧客に提供している。近年いわゆる「グリーンエネルギー関連」で業績を伸ばしてきたが、事業環境の不確実性が高まり業績の停滞を経験した。しかしコスト体質強化、M&Aなどを迅速に進め、足元では業績が底入れている。今後は、新しい中計のもと、良好なコスト体質を基盤に幅広くメガトレンドを案件として取り込むと同時に、ニッチトップ化に向けた製品開発の布石を打つ計画だ。これがROICの改善、ROICスプレッドの改善を通じてPBR1倍超えにどうつながるのかが注目点である。

スミダコーポレーションはOmega Investment Co., Ltd. の顧客であり、同社の依頼を受けてレポートを作成しています。詳しくは、最終ページのディスクレマを参照ください。



四半期別に営業利益を見ると、第2四半期以降、前年同期比増益を続けており、心強い推移と言えそうだ。

四半期売上高/営業利益



出所：同社資料に弊社注記

第二に、バランスシート、キャッシュフローは健全と言える点だ。Net D/Eレシオは0.81倍、キャッシュコンバージョンサイクル96日はいずれも前年度比ほぼ横ばいである。在庫回転日数は87日で前年度比2日増加しているため、一定の留意は必要であろう。フリー・キャッシュ・フローは、大型買収を行ったものの35.7億円のプラスであった。

第三に、同社の中長期業績の先行指標となる、獲得案件の金額推移が順調である点だ。2025年12月期は880億円規模の新規案件を獲得している。これは2024年12月期の970億円を下回るものの、2023年12月期820億円よりも大きい。内訳を見ると車載関連の一服をインダストリーと家電の増加で首尾良くカバーできている。

獲得案件推移

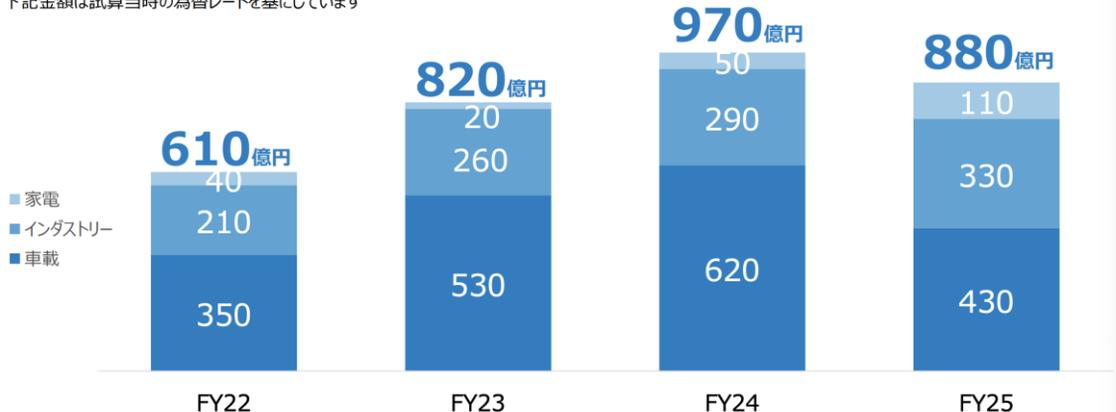


2025年は約880億円(ライフタイム*)の新規案件を獲得。

*各案件を開始してから終了するまでの期間の売上高の総額(案件獲得時)

*各製品市場の製品サイクルや売上計上のイメージはP.49「当社のビジネスモデル②」をご参考ください

*下記金額は試算当時の為替レートを基にしています



*10億円未満を切り捨てて表示

出所：同社資料



◇2026年12月期業績予想：2期連続増収増益見通し、営業利益は実質的に着実増へ

2026年12月期業績予想は、売上収益1560.0億円（同+6.0%増）、営業利益75.0億円（同0.8%増）、税引前利益48.5億円（同0.4%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益36.5億円（同0.9%増）、基本的1株あたり当期利益110.40円、1株年間配当金53円である。2期連続増収増益を目指すことになる。

売上収益についてはインダストリー市場、車載市場の回復を見込んでおり、Schmidbauer社の連結通年寄与も上乘せ要因である。損益面では、増収およびコスト構造改革の効果の継続が期待される一方、銅価格の上昇による原価上昇などのマイナス要因も想定されている。

この結果、営業利益の会社予想は1億円増益にとどまることになるが、2025年12月期には顧客からの補償金10億円が営業利益に含まれている。これを調整すれば実質的に11億円の増益であり、着実な利益増加計画と見るべきである。

なお、設備投資は採算性を重視し68億円（同9.1%増）の予定である。

事業環境の見立て



事業環境における不確実性は依然として高い状況。
今後の市場動向を注視しつつ、地産地消並びに収益源の多様化を進める。

環境	地政学リスクにより、事業環境における不確実性は依然として高い。 米国経済は比較的堅調に推移。 中国経済は、政府が内需の回復を図るため耐久消費財向け補助金を出すも、効果は低減。 欧州では対米関税交渉の成り行き等の不確実要因のため、本格的な回復にはまだ時間を要する模様。 ドイツが2026年に本格的なEV補助金の再導入を開始し、他のEU加盟国も補助金を強化、EVの回復が期待される。		
影響/リスク	「トランプ関税」による影響に引き続き注視。 当社の取引において、当社が通関手続きを行うことはほぼないものの、様々な影響が考えられる。		
	区分	内容	当社グループへの影響
	直接影響	✓ 当社グループが関税を直接負担する取引	軽微
	間接影響	✓ 消費者が関税分の追加コストを負担した場合：最終需要の低下の可能性 ✓ 企業が負担した場合：サプライチェーン各段階での値下げ圧力	潜在的な影響あり
その他	✓ 米国政府の対中政策に基づく米国側の取引・輸入制限の影響 ✓ 為替変動による収益性への影響	潜在的な影響あり 潜在的な影響あり	
対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各地域で設計/製造/販売を完了できる地産地消体制を活かした柔軟な顧客対応 ✓ 収益源の多様化（FY2025Q4に子会社化したSchmidbauer社ビジネスの拡大及び横展開） ✓ 損益分岐点の更なる改善（Ex. 中国における製造間接費の適正化、更なる経費の抑制） ✓ 成長市場の開拓 		

Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

6

出所：同社資料

FY2026 連結業績予想



引続き厳しい事業環境を見込みます。
中期経営計画2026-2028に掲げる取組みを着実に遂行し、収益力の強化・資本効率性の向上に努めます。

* 本業績予想は顧客からの品名別見込みをベースに作成しています

		FY25 実績	FY26 予想	前期比
売上高	百万円	147,194	156,000	+6.0%
営業利益	百万円	7,439	7,500	+0.8%
税引前当期利益	百万円	4,830	4,850	+0.4%
当期利益 ^{*1}	百万円	3,618	3,650	+0.9%
EPS ^{*2}	円	109.47	110.40	+0.9%
営業利益率		5.1%	4.8%	-0.3pt
当期利益率		2.5%	2.3%	-0.2pt

為替レート ^{*3}	米ドル	円	149.85	150.00	+0.1%
	ユーロ	円	168.03	180.00	+7.1%
	人民元	円	20.81	21.43	+3.0%
	香港ドル	円	19.23	19.23	+0.0%
銅価格 ^{*4}	USD/ton	9,939	13,000	+30.8%	

^{*1} 親会社の所有者に帰属する当期純利益

^{*2} 基本的1株あたり当期利益

^{*3} 実績については期中平均為替レート

^{*4} 実績についてはLME市況値（対象期間各月平均の単純平均） LME: London Metal Exchange ロンドン金属取引所

Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

16

出所：同社資料



FY2026 連結業績予想（市場別）



インダストリー市場、車載市場の回復を見込みます。
中長期的にもインダストリー市場の拡大を見込みます。

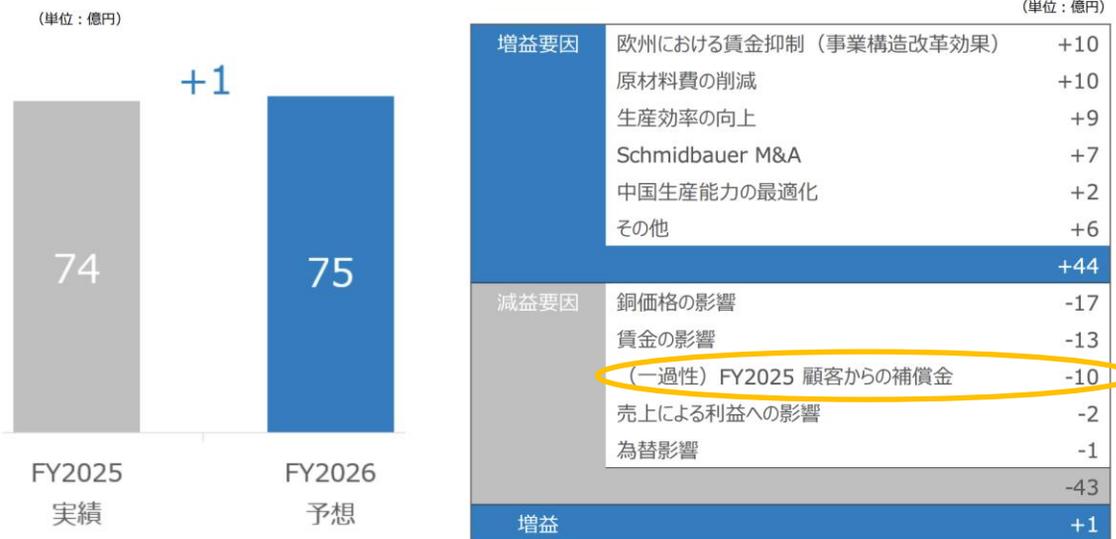
		FY25	FY26	前期比
		実績	予想	
市場別				
車載	百万円	85,415	91,300	+6.9%
インダストリー	百万円	39,312	42,300	+7.6%
家電	百万円	22,466	22,400	-0.3%
計	百万円	147,194	156,000	+6.0%

Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

17

出所：同社資料

FY2026 連結業績予想（営業利益増減要因分析）



Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

18

出所：同社資料に弊社注記



◇VISION to 2035と中期経営計画2026-2028発表

同社は同日、VISION to 2035と中期経営計画2026-2028も発表した。

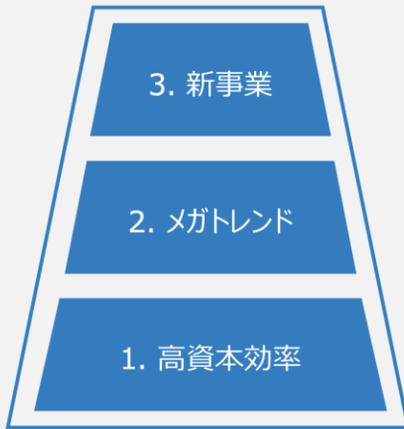
VISION to 2035

まず長期ビジョンである**VISION to 2035**では、同社の強みである技術力・グローバル展開力・用途開発力を活かせる領域が、地球温暖化対応・AI実装・モビリティ革新などによって拡大するという認識に基づき、収益基盤を強化し、メガトレンドによる成長を追求しつつ、複数のニッチ市場で一番を目指す**ニッチトップ戦略**を推進すると表明している。標語は**”Top Position in Multiple Niches”**である。

この戦略は同社の強みを昇華させ、強固な収益力と高い資本効率につながる可能性が高く合理的である。経済産業省が取りまとめている「グローバルニッチトップ企業100選」に示される多くの本邦企業の先例も参考になりそうだ。

ニッチトップ戦略

2035年にありたい姿 **”Top Position in Multiple Niches”** に向け、ニッチトップ戦略を推進する。収益基盤を強化し、メガトレンドによる成長を追求しつつ、複数のニッチ市場で一番を目指す。



- **自社開発の独自技術を製品化。**
模倣困難な価値を提供する新たな市場創出。
- **メガトレンドに即した用途市場での案件獲得。**
従来のグリーンエネルギー関連(xEV, 自然エネルギー)に加え、電力網・移送手段・データセンター・メディカル・ロボット等
- **既存事業領域におけるキャッシュ創出力向上。**
より早くお客様のご要望にお応えすることの追求。

Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

31

出所：同社資料

2035年のSUMIDA製品用途イメージ



Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

32

出所：同社資料



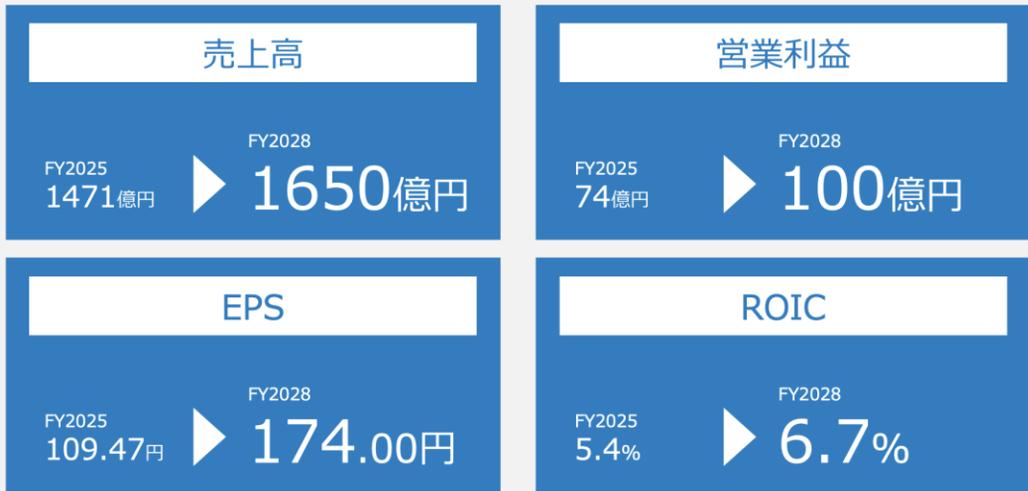
中期経営計画2026-2028

VISION to 2035実現のための当面の計画として示されたのが中期経営計画2026-2028である。

2028年12月期の数値目標は売上収益1650億円、営業利益100億円、EPS174円、ROIC6.7%であり、その骨子は次の通りである。ポイントは、強化された収益力を維持、メガトレンドであるグリーンエネルギー関連・電力網・移送手段・データセンター・医療・ロボット等の案件を獲得、Schmidbauerとのシナジー追求、ニッチトップ新規事業の推進であり、ROICの改善とWACCの抑制によってROIC-WACCスプレッドを拡大し、PBR1倍超えを実現するというものだ。

数値面では、中期経営計画2024-2026の目標であった売上収益1900億円、営業利益135円、EPS272円を超えるものではないが、事業環境の変化を踏まえれば妥当な目標と言えるだろう。

数値目標

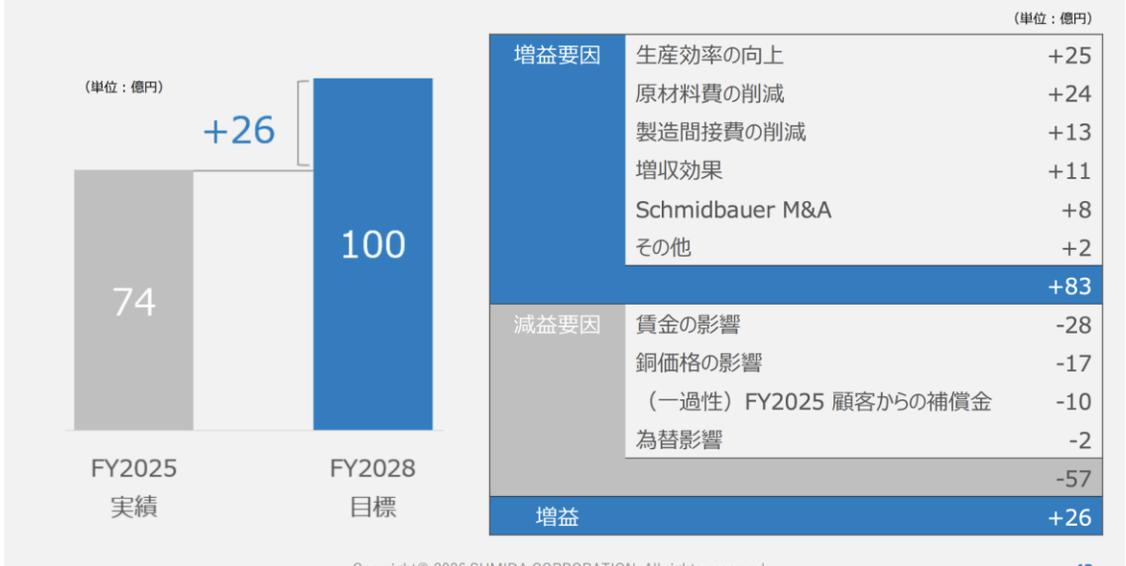


Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

37

出所：同社資料

営業利益増減要因分析 FY2025 ⇔ FY2028



Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

42

出所：同社資料



キャピタルアロケーション

最優先は「成長投資」、次いで「株主還元」。ネットD/Eレシオ0.6倍を目標に財務改善。



最優先は「成長投資」。 既存事業の資本効率を高めて資金を生み出し、メガトレンドや新事業へ投じる。

次いで「株主還元」。 2025年に改訂した配当方針に則り、配当による利益の配分を行う。

ネットD/Eレシオ0.6倍を目標に財務改善を進める。 ただし、M&Aなど成長投資の好機があれば、1.0倍までの一時的な上昇は許容。

Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

43

出所：同社資料

2028年度までに取り組みを完遂し、企業価値の向上を目指す

2028年度までに完遂する取り組み

■ ニッチトップ戦略

1. 高資本効率

- プロセス高速化 ▶ 間接人員を増やさない
- BEP改善と「転用」 ▶ 固定資産を増やさない

2. メガトレンド

- 重点市場への集中攻勢 ▶ 案件獲得

3. 新事業

- Schmidbauerとのシナジー創出 ▶ シナジー案件による利益成長
- VPコイルを治験段階まで
- 量子磁気センサーの製品化に目途

■ 地域戦略

アジア

- 中国ローカル案件獲得
- インド案件獲得

北米

- R&D、製造技術体制の強化

欧州

- SchmidbauerのPMI
- 新領域における案件獲得

企業価値の向上

成長性

EPS

109.47 ▶ 174.00円

収益性

営業利益率

5.1% ▶ 6.1%+

固定資産回転率

2.7 ▶ 3.2倍

CCC

96 ▶ 89日

安定性

Net D/E

0.81 ▶ 0.60倍-

ROIC

5.4% ▶ 6.7%+

PBR

0.6 ▶ 1.0倍+

WACC

5.0% ▶ 5.0%-

Copyright© 2026 SUMIDA CORPORATION. All rights reserved.

45

出所：同社資料



◇株価動向と今後の注目点

同社の株価は2025年12月期第1四半期決算発表以降、一貫して上昇しており、当決算発表後も1200円前後でじり高の推移をしている。長期的に見ても、2012年以來の緩やかな上昇トレンドラインに支えられている。この背景には、予想PER11.0倍、PBR0.65倍程度で株価に過熱感がないこと、コスト構造改革が着実に成果を上げていること、獲得案件も順調であること、先に述べた中期経営計画2026-2028の方向性と施策に納得性があること、2026年12月期業績予想が増収増益であること、があるだろう。

ただし、2017年の高値2400円を起点とする上値抵抗線も形成されており、株価は大きな三角保合の中にある。従って、今後の最大の注目点は、いつ、どのようにPBRが1倍（1875円）を超え、株価がこの大きな三角保合を上抜けるかどうかであろう。中期経営計画2026-2028の最終年度の数値目標に対する期待が高まるにつれ、株価が上昇軌道を強めると想定される。

当面の注目点は次の諸点である。特に、2026年12月期の会社予想である営業利益75億円が、最終目標の100億円に向けてどのような成長曲線を描くのがポイントである。この観点から、以下の点を中心に同社の推移を注意深くフォローしていきたい。

- **2026年12月期の業績推移**：改善した収益体質をさらに維持強化し、四半期ごとに安定的に推移し、できれば超過達成になるか。
- **獲得案件推移**：メガトレンドを獲得案件額に着実につなげていけるのか。
- **Schmidbauer社とのシナジーの最大化**
- **為替、原材料価格の動向**

会社概要

1950年の創業以来75年以上にわたり、コイル関連部品およびモジュールの設計・製造において業界を牽引するグローバルリーダー。高度な技術設計力、独自の製造ノウハウ、多岐にわたる用途展開力、グローバル生産体制を強みに、世界各地の主要顧客に対してカスタムメイド・コイルの受託生産を地産地消モデルで展開している。事業は地理的、市場セグメント的に適切に分散している。

近年「グリーンエネルギー関連」で業績を伸ばしてきたが、事業環境の不確実性が高まり業績面でも一旦足踏みを経験した。しかしコスト体質を迅速に改善し、さらにSchmidbauer社の買収による外部成長の取り込みも進め、業績は回復軌道にある。

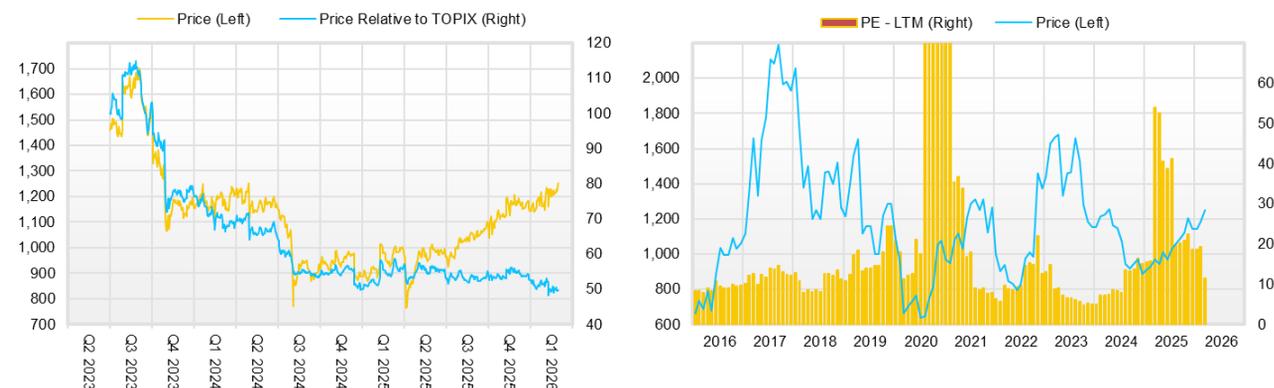
2026年に入り、同社は長期的にニッチトップ戦略を推進すると表明し、当面の施策として中期経営計画2024-2026を発表している。良好なコスト体質を基盤に、グリーンエネルギー関連をはじめ幅広くメガトレンドを案件化し、さらにニッチトップ化に向けた製品開発の布石を打っていく目論みだ。これがROICの改善、ROICスプレッドの改善を通じてPBR1倍超えにどうつながっていくのかが注目点である。

主要財務データ

単位: 百万円	2021	2022	2023	2024	2025	2026 CE
売上高	104,920	138,600	147,672	143,978	147,194	156,000
EBIT (営業利益)	5,669	7,983	8,829	5,633	8,084	
税引前収益	3,898	6,534	5,856	1,295	4,830	4,850
親会社株主帰属利益	2,629	5,099	5,064	590	3,618	3,650
現金・預金	4,237	2,944	3,107	4,286	6,129	
総資産	117,725	134,846	142,786	147,766	163,656	
債務合計	54,763	58,546	57,198	57,975	64,023	
純有利子負債	50,526	55,602	54,091	53,689	57,894	
負債総額	77,622	85,966	85,471	86,849	98,298	
株主資本	38,338	46,829	55,056	58,648	62,008	
営業活動によるキャッシュフロー	600	10,566	18,343	14,928	16,457	
設備投資額	6,737	9,174	10,914	9,005	7,347	
投資活動によるキャッシュフロー	-6,712	-8,174	-10,702	-8,834	-12,886	
財務活動によるキャッシュフロー	4,751	-4,130	-7,782	-5,268	-1,958	
フリーキャッシュフロー	-5,212	2,362	8,539	7,068	10,224	
ROA (%)	2.44	4.04	3.65	0.41	2.32	
ROE (%)	7.37	11.98	9.94	1.04	6.00	
EPS (円)	96.7	187.5	167.4	17.9	109.4	110.4
BPS (円)	1,409.8	1,722.1	1,687.4	1,774.6	1,875.5	
一株当たり配当(円)	28.00	47.00	51.00	53.00	53.00	53.00
発行済み株式数 (百万株)	27.44	27.44	32.88	33.10	33.11	

出所：同社資料より Omega Investment 作成

株価推移



財務データI (四半期ベース)

単位: 百万円	2023/12	2024/12				2025/12			
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
[損益計算書]									
売上高	36,739	36,313	36,752	36,470	34,442	35,390	35,780	36,906	39,118
前年同期比	-2.4%	2.1%	-2.4%	-3.3%	-6.3%	-2.5%	-2.6%	1.2%	13.6%
売上原価	32,584	32,014	32,263	31,656	30,037	31,007	30,524	31,618	33,121
売上総利益	4,155	4,299	4,489	4,814	4,405	4,383	5,256	5,288	5,997
粗利率	11.3%	11.8%	12.2%	13.2%	12.8%	12.4%	14.7%	14.3%	15.3%
販管費	3,006	3,218	3,353	3,091	2,713	3,151	3,059	3,154	3,476
EBIT (営業利益)	1,149	1,081	1,136	1,723	1,692	1,232	2,197	2,134	2,521
前年同期比	-56.3%	-51.1%	-56.2%	-40.1%	47.3%	14.0%	93.4%	23.9%	49.0%
EBITマージン	3.1%	3.0%	3.1%	4.7%	4.9%	3.5%	6.1%	5.8%	6.4%
EBITDA	3,718	3,707	3,956	4,552	4,439	3,809	5,618	4,662	5,876
税引前収益	387	464	268	951	-389	802	1,372	1,455	1,201
当期利益	757	313	114	710	-703	580	1,053	965	984
少数株主損益	53	-35	-23	-46	-52	-5	-29	-45	44
親会社株主帰属利益	702	348	137	756	-652	585	1,082	1,010	941
前年同期比	-66.0%	-71.8%	-93.3%	-30.2%	-192.9%	68.1%	689.8%	33.6%	244.3%
利益率	1.9%	1.0%	0.4%	2.1%	-1.9%	1.7%	3.0%	2.7%	2.4%
[貸借対照表]									
現金・預金	3,107	6,002	5,156	4,750	4,286	6,087	5,429	12,256	6,129
総資産	142,786	152,361	159,600	143,335	147,766	144,110	142,062	151,308	163,656
債務合計	57,198	63,785	65,509	58,303	57,975	58,367	57,039	62,193	64,023
純有利子負債	54,091	57,783	60,353	53,553	53,689	52,280	51,610	49,937	57,894
負債総額	85,471	92,128	95,474	85,403	86,849	85,709	83,098	90,181	98,298
株主資本	55,056	57,875	61,653	55,751	58,648	56,205	56,801	58,947	62,008
[収益率 %]									
ROA	3.65	2.89	1.46	1.33	0.41	0.56	1.17	1.38	2.32
ROE	9.94	7.90	3.74	3.32	1.04	1.45	2.99	3.53	6.00
[一株当り指標: 円]									
EPS	21.5	10.7	4.2	22.9	-19.7	17.7	32.7	30.6	28.5
BPS	1,687.4	1,773.8	1,867.5	1,687.0	1,774.6	1,700.6	1,718.1	1,783.0	1,875.5
一株当り配当	28.00	0.00	26.00	0.00	27.00	0.00	26.00	0.00	27.00
発行済み株式数 (百万株)	32.88	32.88	33.04	33.10	33.10	33.10	33.11	33.11	33.11

出所：同社資料より Omega Investment 作成

財務データ（通期ベース）

単位: 百万円	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
[損益計算書]										
売上高	81,052	90,153	97,538	94,283	84,417	104,920	138,600	147,672	143,978	147,194
前年同期比	-6.0%	11.2%	8.2%	-3.3%	-10.5%	24.3%	32.1%	6.5%	-2.5%	2.2%
売上原価	66,191	75,019	82,192	81,414	73,319	89,563	119,298	126,561	125,970	126,270
売上総利益	14,861	15,134	15,346	12,869	11,098	15,357	19,302	21,111	18,008	20,924
粗利率	18.3%	16.8%	15.7%	13.6%	13.1%	14.6%	13.9%	14.3%	12.5%	14.2%
販管費	8,507	8,837	9,694	9,330	8,798	9,688	11,319	12,282	12,375	12,840
EBIT（営業利益）	6,354	6,297	5,652	3,539	2,300	5,669	7,983	8,829	5,633	8,084
前年同期比	50.0%	-0.9%	-10.2%	-37.4%	-35.0%	146.5%	40.8%	10.6%	-36.2%	43.5%
EBITマージン	7.8%	7.0%	5.8%	3.8%	2.7%	5.4%	5.8%	6.0%	3.9%	5.5%
EBITDA	9,251	9,574	9,660	8,848	8,247	12,337	16,103	18,190	16,655	19,965
税引前収益	5,469	5,697	4,061	2,184	1,470	3,898	6,534	5,856	1,295	4,830
当期利益	3,844	4,628	2,531	1,596	839	2,695	5,168	5,102	434	3,582
少数株主損益	178	123	110	13	11	66	68	37	-156	-35
親会社株主帰属利益	3,666	4,504	2,420	1,582	828	2,629	5,099	5,064	590	3,618
前年同期比	80.4%	22.9%	-46.3%	-34.6%	-47.7%	217.5%	94.0%	-0.7%	-88.3%	513.2%
利益率	4.5%	5.0%	2.5%	1.7%	1.0%	2.5%	3.7%	3.4%	0.4%	2.5%
[貸借対照表]										
現金・預金	3,546	5,375	4,098	3,286	5,237	4,237	2,944	3,107	4,286	6,129
総資産	69,007	84,366	94,277	96,561	98,063	117,725	134,846	142,786	147,766	163,656
債務合計	30,611	35,836	40,206	43,646	44,586	54,763	58,546	57,198	57,975	64,023
純有利子負債	27,065	30,461	36,108	40,360	39,349	50,526	55,602	54,091	53,689	57,894
負債総額	46,982	54,242	58,835	61,963	63,503	77,622	85,966	85,471	86,849	98,298
株主資本	20,629	28,570	33,829	33,013	32,990	38,338	46,829	55,056	58,648	62,008
[キャッシュフロー計算書]										
営業活動によるキャッシュフロー	8,291	3,658	4,672	8,732	9,107	600	10,566	18,343	14,928	16,457
設備投資額	5,024	9,511	9,610	8,302	6,765	6,737	9,174	10,914	9,005	7,347
投資活動によるキャッシュフロー	-4,961	-9,254	-15,153	-8,133	-6,669	-6,712	-8,174	-10,702	-8,834	-12,886
財務活動によるキャッシュフロー	-3,016	7,389	9,477	-1,261	-447	4,751	-4,130	-7,782	-5,268	-1,958
フリーキャッシュフロー	3,941	-5,173	-3,769	1,379	3,118	-5,212	2,362	8,539	7,068	10,224
[収益率 %]										
ROA	5.36	5.87	2.71	1.66	0.85	2.44	4.04	3.65	0.41	2.32
ROE	19.27	18.31	7.76	4.74	2.51	7.37	11.98	9.94	1.04	6.00
当期利益率	4.52	5.00	2.48	1.68	0.98	2.51	3.68	3.43	0.41	2.46
資産回転率	1.18	1.18	1.09	0.99	0.87	0.97	1.10	1.06	0.99	0.95
財務レバレッジ	3.60	3.12	2.86	2.86	2.95	3.03	2.97	2.72	2.56	2.58
[一株当り指標: 円]										
EPS	157.9	176.4	90.2	58.3	30.5	96.7	187.5	167.4	17.9	109.4
BPS	888.8	1,069.6	1,250.0	1,216.1	1,213.7	1,409.8	1,722.1	1,687.4	1,774.6	1,875.5
一株当り配当	34.00	45.00	27.00	24.00	9.00	28.00	47.00	51.00	53.00	53.00
発行済み株式数(百万株)	23.94	27.44	27.44	27.44	27.44	27.44	27.44	32.88	33.10	33.11

出所：同社資料より Omega Investment 作成



General disclaimer and copyright

本レポートは当該企業への取材や決算資料等を元に作成・表示したものです。その内容及びデータの正確性、完全性、信憑性を保証するものではありません。本レポートは、情報提供のみを目的としており、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。オメガインベストメントは、本レポートの使用により発生した結果について一切の責任を負うものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への取材を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はオメガインベストメントの Recherche によるものです。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はオメガインベストメントに帰属します。配布、譲渡、複製、及び転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。